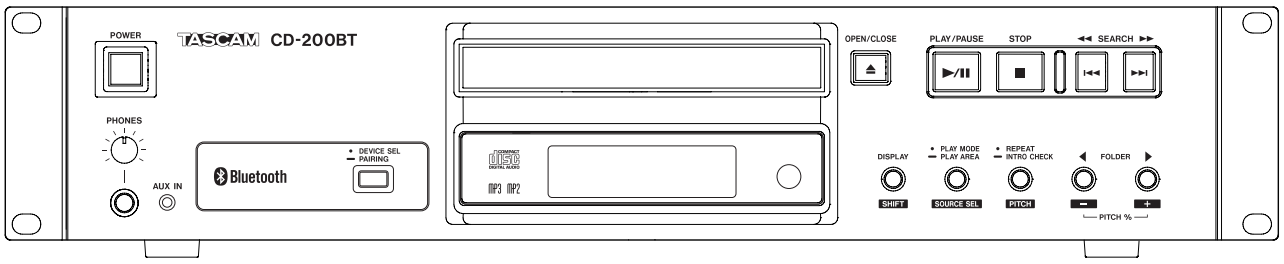
TASCAM

D01194401A

CD-200BT

CD Player / Bluetooth Receiver

取扱説明書



安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

⚠ **警告**	**以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
 電源プラグをコンセントから抜く	**万一、異常が起きたら** **煙が出たり、変なにおいや音がするときは** **機器の内部に異物や水などが入ったときは** **この機器を落としたり、カバーを破損したときは** すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）に修理をご依頼ください。
 禁止	**電源コードを傷つけない** **電源コードの上に重いものをのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない** **電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない** コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）に交換をご依頼ください。
	交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上の隙間をあける 隙間をあけないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしない 火災・感電の原因となります。
 指示	**電源プラグにほこりをためない** 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的（年１回くらい）に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。
 禁止	**機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない** 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。
 分解禁止	**この機器のカバーは絶対に外さない** カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご依頼ください。
	この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。

⚠ **注意**	**以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。**
電源プラグをコンセントから抜く	**移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す** コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入は、漏電や感電の原因となることがあります。
指示	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する** **また、接続は指定のコードを使用する**
	電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。また、モニター機器などの破損の原因となることがあります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。
禁止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない** 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 必ずプラグを持って抜いてください。
禁止	**濡れた手で電源プラグを抜き差ししない** 感電の原因となることがあります。
注意	5年に一度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご相談ください。 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。

電池の取り扱いについて

本機に付属するワイヤレスリモコンは、電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどを避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

⚠ **警告** 乾電池に関する警告	
禁止	**乾電池は絶対に充電しない** 破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

⚠ **警告** 電池に関する警告	
強制	**電池を入れるときは、極性表示(プラスとマイナスの向き)に注意し、電池ケースに表示されているとおりに正しくいれる** 間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	長時間使用しないときは電池を取り出しておく 液がもれて火災・けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。
禁止	**指定以外の電池は使用しない** **新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない** 破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損することがあります。
	金属製の小物類に携帯、保管しない ショートして液もれや破裂などの原因となることがあります。
	加熱したり、火や水の中に入れない 電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
分解禁止	**分解しない** 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。

目次

安全にお使いいただくために 2
電池の取り扱いについて 4

第1章　はじめに 6
本機の概要 6
本機の構成 6
本書の表記 6
商標および著作権に関して 7
設置上の注意 7
電源について 7
結露について 7
製品のお手入れ 7
CD（コンパクトディスク）について 8
取り扱い上の注意 8
電波について 8
電波について 8
本機の使用上の注意事項 8
通信コンディション 8
Bluetoothについて 9
プロファイル 9
コーデック 9
コンテンツ保護 9
通信セキュリティ 9
アフターサービス 9

第2章　各部の名称と働き 10
フロントパネル 10
リアパネル 12
ディスプレー 13
ワイヤレスリモコン（TASCAM RC-CD200BT） 14

第3章　準備 16
接続する 16
外部入力端子への接続 17
リモコンを準備する 18
乾電池の入れ方 18
乾電池の交換時期 18
乾電池についての注意 18
リモコン使用上の注意 18
CDをセットする 18
出力する音源（カレントソース）を選択する 19

第4章　CDの再生 20
再生可能なディスク／ファイル 20
データCDのフォルダーとトラックについて 20
再生範囲 21
再生範囲を設定する 21
再生モード 21
再生モードを選択する 21
再生する 22
トラックを選ぶ 22
前後のトラックにスキップする 22
トラック番号を指定する 22
早送り／早戻しサーチ 22
フォルダー再生（データCDのみ） 23
再生するフォルダーを選択する 23
プログラム再生 23
プログラムを設定する 23
プログラムを確認する 24
プログラムトラックを差し替える 24
プログラムトラックを追加する 25
プログラムを消去する 25
リピート再生 25
時間や文字情報の表示 26
ピッチコントロール 27
イントロチェック 27

第5章　Bluetooth機器の再生 28
ペアリング 28
Bluetooth機器の検索 28
コントロール範囲 28
Bluetooth機器の再生 28
ディスプレーの表示 29
ペアリング情報の削除 29

第6章　メッセージ 30
動作メッセージ 30
警告メッセージ 30
エラーメッセージ 30

第7章　トラブルシューティング 31

第8章　仕様 32
定格 32
入出力定格 32
アナログオーディオ入力定格 32
アナログオーディオ出力定格 32
デジタルオーディオ出力定格 32
オーディオ性能 32
バックアップメモリー 32
Bluetooth 32
一般 33
寸法図 33

第1章　はじめに

このたびは、TASCAM CD Player / Bluetooth Receiver CD-200BTをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいたうえで、末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。
また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト（**http://tascam.jp/**）からダウンロードすることができます。

本機の概要

- オーディオCD（CD-DA）の他に、WAV形式、MP3およびMP2形式のファイルを収録したデータCD（CD-ROM/R/RW）の再生が可能
- 2U、EIAラックマウントサイズ
- アナログ出力（RCA）およびデジタル出力（コアキシャルおよびオプティカル）を装備
- ヘッドホンによるモニターが可能
- 数字ボタン（**0**～**9**ボタン）を装備したワイヤレスリモコン（TASCAM RC-CD200BT）を付属
- CDテキストおよびID3タグに対応し、文字情報（アーティスト名、アルバム名、トラック名など）の表示が可能
- 4種類の再生モード（連続再生、シングル再生、ランダム再生、プログラム再生）
- リピート再生機能（オン／オフ）
- データCD再生での再生範囲指定機能（ALL PLAY、FOLDER）
- CD再生へのピッチコントロール機能（±14%）
- イントロチェック機能
- 時間表示（オーディオCDはトラック経過時間、トラック残時間または総残時間、データCDはトラック経過時間）が可能
- CDドライブは、10秒のショックプルーフメモリー（音飛びガード）を搭載
- Bluetooth®オーディオレシーバーを搭載し、Bluetooth（A2DP）に対応したパソコンやポータブルオーディオ機器からの音声の出力が可能
- Bluetooth（A2DP）では、SBCに加えAAC、aptX®のデコードに対応し、高品位の音声受信が可能
- Bluetooth（A2DP）では加えてSCMS-Tに対応し、コンテンツ保護された音声の受信が可能
- ステレオミニジャックのオーディオライン入力端子を装備し、Bluetoothに対応していないポータブルオーディオ機器の音声入力が可能

本機の構成

本機の構成は、以下の通りです。
なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。
付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- 本体　x1
- ワイヤレスリモコン（RC-CD200BT）　x1
- 単3形乾電池　x2
- ラックマウントビスキット　x1
- 保証書　x1
- 取扱説明書（本書）　x1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「**DISPLAY**ボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を **“REPEAT”** のように **“_”** で括って表記します。
- 「CD-DA」形式のことを「オーディオCD」形式と表記する場合があります。
- MP3、MP2オーディオファイルやWAVオーディオファイルを記録したCDを「データCD」と表記します。
- 「オーディオCD」、「データCD」を総称して、「CD」と表記する場合があります。
- 本機で再生可能なMP3 ／ MP2 ／ WAVファイルの総称として「音楽ファイル」と表記する場合があります。
- 現在選択中の音源（ソース）のことを「カレントソース」と表記します。
- 現在選択中のフォルダーのことを「カレントフォルダー」と表記します。
- 現在選択中のファイルのことを「カレントファイル」と表記します。
- 本機とBluetoothで接続するパソコンやポータブルオーディオ機器などを「Bluetooth機器」と表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- The Bluetooth® word mark and logos are registered trademarks owned by Bluetooth SIG, Inc. and any use of such marks by TEAC CORPORATION is under license.
- © 2012 CSR plc and its group companies. The aptX® mark and the aptX logo are trade marks of CSR plc or one of its group companies and may be registered in one or more jurisdictions.

- MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではございません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、またはこれらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

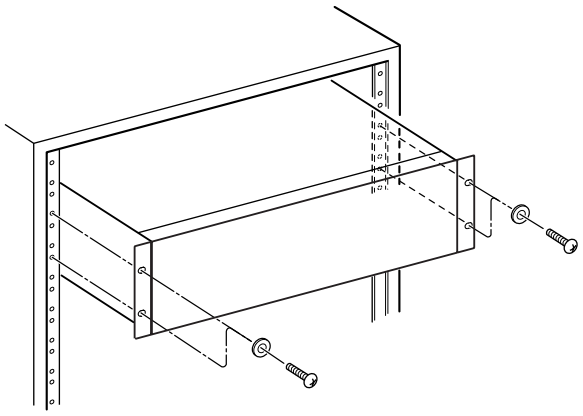
第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。
弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏5度～35度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。

  振動の多い場所
  窓際などの直射日光が当たる場所
  暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
  極端に温度が低い場所
  湿気の多い場所や風通しが悪い場所
  ほこりの多い場所

- 本機は、水平に設置してください。
- 放熱を良くするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機をラックにマウントする場合は、付属のラックマウントビスを使って、下図のように取り付けてください。
  なお、ラック内部では、本機の上に1U以上（5cm以上）のスペースを開けてください。



電源について

- AC100V（50-60Hz）以外の電源には、接続しないでください。
- 電源コードの抜き差しは、プラグを持って行ってください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

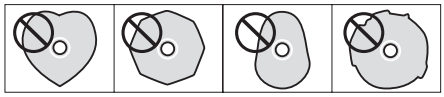
製品の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷めたり色落ちさせる原因となります。

CD（コンパクトディスク）について

本機は、市販の音楽CDのほかに、オーディオCD（CD-DA）形式で記録したCD-RやCD-RWディスク、MP3 ／ MP2オーディオファイルあるいはWAVオーディオファイルを記録したCD-RやCD-RWディスクを再生することができます。また、8cmCDの再生も可能です。

取り扱い上の注意

- ディスクは、必ずレーベル面を上にして挿入してください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手で挟むように持ってください。
- 信号記録面（レーベルがない面）には、触れないでください。指紋や脂などが付着していると、再生するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号記録面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布を使って中心から外側に向かって軽く拭いてください。
  ディスクの汚れは音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。
- ディスクの清掃に、レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの化学薬品を使用することは絶対お止めください。表面が変質して再生不能になる恐れがあります。
- ディスクにラベルなどを貼ることはおやめください。盤面にセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や名刺形、八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。



- いくつかのレコード会社より「コピーコントロールCD」と銘打った著作権保護を目的としたディスクが販売されています。これらはCD規格に準拠していないディスクも存在するため、本機で再生できない場合があります。

電波について

電波について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証技術基準適合証明を受けています。したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと

また、本機は日本国内のみで使用してください。各国の電波法に抵触する可能性があります。

本機は、2.4GHz帯を使用する無線機器です。
変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10mです。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数帯（2.4GHz帯）では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. 使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定の小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに場所を変更するか、または電波の発射を停止したうえ、タスカム カスタマーサポート（裏表紙に記載）にご連絡いただき、混信回避のための処置についてご相談ください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りの場合は、タスカム カスタマーサポート（裏表紙に記載）へお問い合せください。

通信コンディション

本機のBluetooth通信出力クラスは、Class2です。
見通し通信距離は10m程度ですが、障害物や電波状況によって距離は変動します。
本機とBluetooth機器との間に障害物がある場合、Bluetooth通信に悪影響が出る場合があります。この場合は、障害物を除去してください。また、使用環境内で無線LAN（IEEE802.11b/g）や電子レンジが使用されている場合にも、Bluetooth通信に悪影響が出る場合があります。この場合は、これらの機器の使用を中止するか、本機およびBluetooth機器をこれらの機器から10m以上離してください。

Bluetoothについて

本機は、Bluetoothオーディオレシーバーを搭載しており、Bluetoothに対応したパソコンやポータブルオーディオ機器（Bluetooth機器）の再生音声を出力できます。また、Bluetooth機器の再生制御を本機から行えます。

注意

本機のBluetooth機能について、全てのBluetooth機器との接続や動作を保証するものではありません。

プロファイル

本機は、以下の Bluetoothプロファイルに対応しています。

- A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）
- AVRCP（Audio/Video Remote Control Profile）

Bluetoothで音声伝送を行うには、Bluetooth機器がA2DPに対応している必要があります。
Bluetooth機器の再生を制御するには、Bluetooth機器がAVRCPに対応している必要があります。
ただし、同じプロファイルに対応していても、Bluetooth機器の仕様により、機能が異なる場合があります。

コーデック

本機は、以下のA2DPコーデックに対応しており、音声伝送時にいずれかのコーデックを自動選択します。

- SBC
- AAC
- aptX

使用するA2DPコーデックは、Bluetooth機器のコーデック対応や通信状況に応じて適切に選択します。

メモ

使用するA2DPコーデックは、ボタン操作などで選択することはできません。
Bluetooth無線技術の特性により、Bluetooth機器の再生に比べて本機側での再生がわずかに遅れます。

コンテンツ保護

本機は、音声伝送時のコンテンツ保護としてSCMS-Tに対応しており、保護された音声を再生できます。

通信セキュリティ

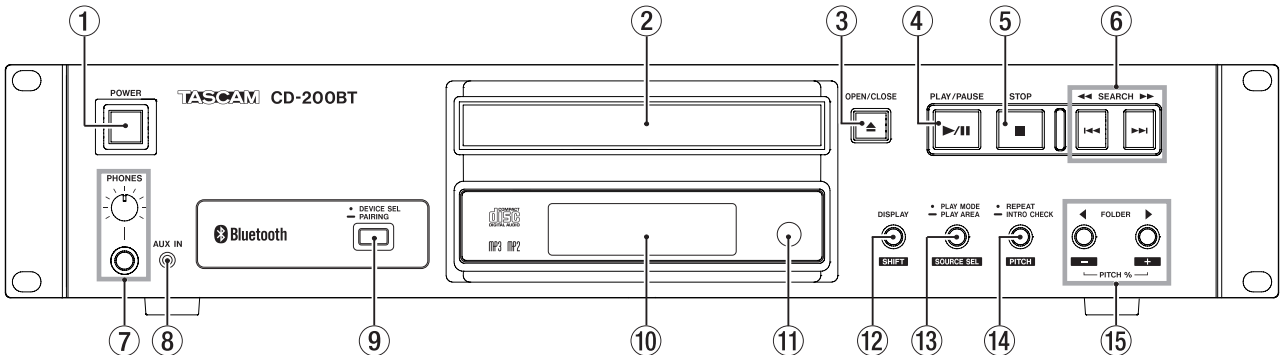
本機は、Bluetooth通信でBluetoothの標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応していますが、通信の秘匿性を保障するものではありません。
Bluetoothでの通信で情報の漏洩が発生しましても、弊社は一切の責任を負いかねます。

アフターサービス

- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししていますので、大切に保管してください。万が一販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無償修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシート等ご購入店・ご購入日が確認出来るものを一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センター（裏表紙に記載）が修理いたします。ただし、保証期間内であっても使用1,000時間を超えた場合の故障および損傷は有償になります。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）までご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。
  なお､本機の故障､もしくは不具合により発生した付随的損害（記録内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
  - 型名、型番（CD-200BT）
  - 製造番号（Serial No.）
  - 故障の症状（できるだけ詳しく）
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、裏表紙をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

第2章　各部の名称と働き

フロントパネル



① POWERスイッチ

電源をオン／オフします。

注意

電源を入れる前には、接続機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

② ディスクトレー

OPEN/CLOSEボタンを押してディスクトレーを開け、ディスクのセット／取り出しを行います。

ディスクトレーを閉じるときは、**OPEN/CLOSE**ボタンを押します。

③ OPEN/CLOSEボタン

ディスクトレーを開閉します。

④ PLAY/PAUSEボタン

停止中または一時停止中に押すと、再生を開始します。

再生中に押すと、一時停止状態になります。

⑤ STOPボタン

このボタンを押すと、再生を停止します。

プログラム編集中にこのボタンを押すと、登録した全てのプログラムがクリアされます。（ → 23ページ「プログラムを設定する」）

⑥ SEARCH ◄◄ ／ ►► [I◄◄ ／ ►►I] ボタン

短く押すとトラック選択（スキップ）を行い、押し続けるとサーチを行います。

⑦ PHONESジャック／つまみ

ステレオヘッドホンを接続するためのステレオ標準ジャックです。ミニプラグのヘッドホンを接続する場合は、変換アダプターをご使用ください。

PHONESつまみでヘッドホン出力レベルを調節します。

注意

ヘッドホンを接続する前には、**PHONES**つまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

⑧ AUX IN端子

ステレオミニジャックのオーディオライン入力端子です。

ポータブルデジタルプレイヤーなどの外部オーディオ機器を接続します。

注意

外部機器を**AUX IN**端子に接続する前には、外部機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

⑨ DEVICE SEL ／ PAIRINGボタン

このボタンを短く押すと、Bluetoothで接続（接続待機）する機器名を2秒間表示します。その間に再度このボタンを短く押すと、Bluetoothで接続（接続待機）する機器を切り換えます。（ → 28ページ「Bluetooth機器の検索」）

このボタンを長く押すと、Bluetoothのペアリングモードになります。ペアリング中にこのボタンを長く押すと、ペアリングモードを中止します。（ → 28ページ「ペアリング」）

⑩ ディスプレー

各種情報を表示します。

⑪ リモコン受光部

付属のワイヤレスリモコン（TASCAM RC-CD200BT）の信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をこちらに向けて操作してください。

⑫ DISPLAY [SHIFT] ボタン

ディスプレーに表示される時間情報や文字情報の内容を切り換えます。このボタンを押すと、現在ディスプレーに表示している情報の種類を2秒間表示します。その間に再度このボタンを押すと、表示内容の種類を切り換えます。

表示できる情報は、カレントソース、ディスクの種類や動作状態によって変わります。（ → 26ページ「時間や文字情報の表示」）、（ → 29ページ「ディスプレーの表示」）

他のボタンと同時に押すことにより、シフト機能（各ボタンの下に白抜き文字で表示）の操作をします。

⑬ PLAY MODE ／ PLAY AREA [SOURCE SEL] ボタン

このボタンを短く押すと、再生モードを切り換えます。
再生モードには、連続、シングル、ランダム、プログラムの4種類があります。（ → 21ページ「再生モード」）
このボタンを長く押すと、データCD再生時の再生範囲を **“ALL PLAY”** もしくは **“FOLDER”** から選択できます。（ → 21ページ「再生範囲を設定する」）
DISPLAY [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、以下の順でカレントソースを切り換えます。

CD → Bluetooth → AUX IN

[カレントソース・切り換え順]

メモ

AUX INは、機器が接続されていない場合は選択できません。

注意

再生モードおよび再生範囲の切り換え機能は、Bluetoothには使用できません。

⑭ REPEAT ／ INTRO CHECK [PITCH] ボタン

リピート再生機能のオン／オフを切り換えます。（ → 25ページ「リピート再生」）
再生中あるいは停止中にこのボタンを長く押すと、イントロチェック再生を行います。CDに収録されている各トラックの冒頭部分を10秒間、次々と再生します。イントロチェック再生中に、再度このボタンを長く押すとイントロチェック機能を解除し、前に設定された再生モードに戻り、現在のトラックを再生し続けます。（ → 27ページ「イントロチェック」）
DISPLAY [SHIFT] ボタンを押しながらこのボタンを押すと、CD再生に対するピッチコントロール機能のオン／オフを行います。（ → 27ページ「ピッチコントロール」）

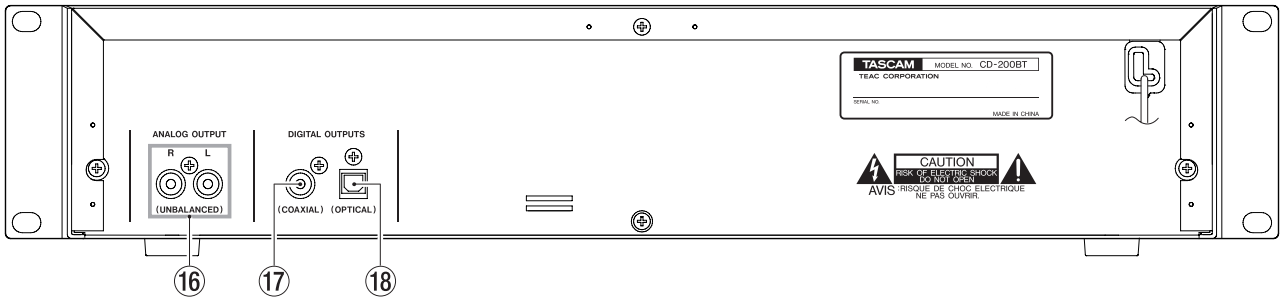
注意

リピート再生機能の切り換えとイントロチェック機能は、Bluetoothには使用できません。

⑮ FOLDER ◀ ／ ▶ [PITCH −／+] ボタン

カレントソースがCDのとき、再生範囲が **“FOLDER”** のときにこれらのボタンを押すと、再生対象となるフォルダーが切り換わります。（ → 23ページ「再生するフォルダーを選択する」）
カレントソースがCDのとき、再生範囲が **“ALL PLAY”** のときに、これらのボタンを押すと、フォルダー単位でトラックスキップします。
DISPLAY [SHIFT] ボタンを押しながらこれらのボタンを押すと、ピッチコントロールの値を設定します。（ → 27ページ「ピッチコントロール」）

リアパネル



⑯ ANALOG OUTPUT（UNBALANCED）端子

CD ／ Bluetoothの再生音声信号、もしくは**AUX IN**端子の入力信号を、アナログ出力します（基準出力：−10dBV）。

⑰ DIGITAL OUTPUTS（COAXIAL）端子

CDの再生信号を、S/PDIFフォーマットでデジタル出力します。

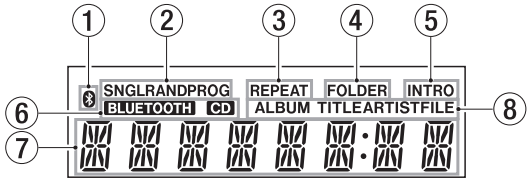
⑱ DIGITAL OUTPUTS（OPTICAL）端子

CDの再生信号を、S/PDIFフォーマットでデジタル出力します。

メモ

- Bluetoothの再生音声および**AUX IN**端子に入力された音声は、アナログ音声出力のみとなっております。デジタル音声は出力はされません。
- 本機のデジタル出力のサンプリング周波数は、再生ファイルのサンプリング周波数に関わらず44.1kHzとなります。
- CD再生時、ピッチコントロール機能がオンのときもデジタル出力しますが、ピッチコントロール値の分だけサンプリング周波数は変動します。ピッチコントロール機能がオンのとき、機器によっては本機のデジタル出力を受信できない場合があります。

ディスプレー



① アイコン表示

Bluetooth機器との接続状態を表示します。

アイコン表示	状態
点滅	未接続
点灯	接続中
早い点滅	ペアリング動作中

② 再生モード表示

現在の再生モードを表示します。

表示	再生モード
表示なし	連続再生モード
SNGL	シングル再生モード
RAND	ランダム再生モード
PROG	プログラム再生モード

③ REPEAT表示

リピート再生機能がオンのとき**“REPEAT”**を表示します。

④ FOLDER表示

再生範囲が**“FOLDER”**のとき**“FOLDER”**を表示します。

⑤ INTRO表示

イントロチェック機能がオンのときに**“INTRO”**を表示します。

⑥ カレントソース表示部

カレントソースの種類を表示します。

表示	カレントソース
CD	CD
BLUETOOTH	Bluetooth
表示なし	AUX（メイン表示部に**“-AUX-”**と表示）

⑦ メイン表示部

トラック番号／時間表示または文字情報表示を行います。また、本機の状態（**“OPEN”**、**“CLOSE”**、**“TOC* READ”**など）やメッセージ（**“NO DISC”**など）の表示も行います。
8文字を超えるものはスクロール表示します。

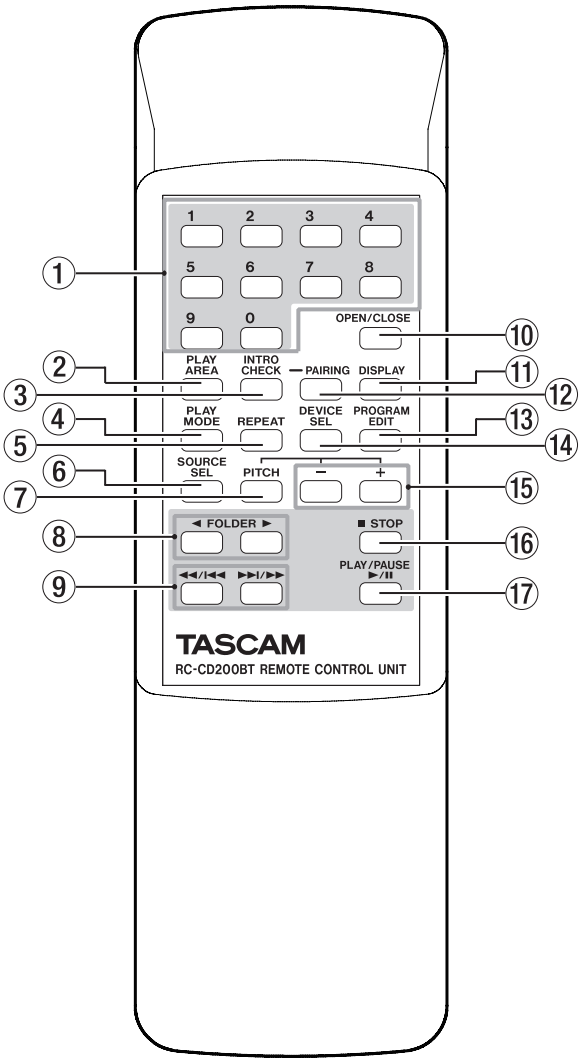
＊ **TOC**：Table Of Contents = ディスクに書かれている曲情報

⑧ 文字情報種別表示

メイン表示部に文字情報を表示しているとき、その種別を表示します。

表示	内容
ALBUM TITLE	CD-TEXTのアルバムタイトルまたはカレントフォルダー名
ALBUM ARTIST	CD-TEXTのアルバムアーティスト
TITLE	CD-TEXTのトラックタイトルまたはカレントファイルのTAG情報でのトラックタイトル
ARTIST	CD-TEXTのトラックアーティストまたはカレントファイルのTAG情報でのトラックアーティスト
FILE	カレントファイル名

ワイヤレスリモコン（TASCAM RC-CD200BT）



① 数字ボタン（0～9ボタン）

数字ボタン（0～9ボタン）を使ってトラック番号を指定して選曲することができます。（ → 22ページ「トラック番号を指定する」）

トラック番号は、オーディオCDの場合は最大2桁、データCDの場合は最大3桁です。

② PLAY AREAボタン

このボタンを押すと、データCD再生時の再生範囲を **“ALL PLAY”** もしくは **“FOLDER”** から選択できます。（ → 21ページ「再生範囲を設定する」）

③ INTRO CHECKボタン

イントロチェック再生を行います。カレントソースに収録されているトラックの冒頭部分を10秒間、次々と再生します。

イントロチェック再生中に、再度このボタンを長く押すと通常再生モードに戻ります。（ → 27ページ「イントロチェック」）

④ PLAY MODEボタン

再生モードを切り換えます。

再生モードには、連続再生モード、シングル再生モード、ランダム再生モード、プログラム再生モードの4種類があります。（ → 21ページ「再生モード」）

注意

再生モードおよび再生範囲の切り換え機能は、Bluetoothには使用できません。

⑤ REPEATボタン

リピート再生機能のオン／オフを切り換えます。（ → 25ページ「リピート再生」）

⑥ SOURCE SELボタン

カレントソースを、以下の順で切り換えます。（ → 19ページ「出力する音源（カレントソース）を切り換える」）。

→ CD → Bluetooth → AUX IN ┐

[カレントソース・切り換え順]

メモ

AUX INは、機器が接続されていない場合は選択できません。

⑦ PITCHボタン

CD再生のピッチコントロール機能のオン／オフを行います。（ → 27ページ「ピッチコントロール」）

⑧ FOLDER ◀ ／ ▶ ボタン

再生範囲が **“FOLDER”** のとき、これらのボタンを押すと再生対象となるフォルダーが切り換ります。（ → 23ページ「再生するフォルダーを選択する」）

再生範囲が **“ALL PLAY”** のとき、これらのボタンを押すと、フォルダー単位でトラックスキップします。

⑨ ◀◀/I◀◀ ／ ▶▶I/▶▶ ボタン

短く押すとトラック選択（スキップ）を行い、押し続けるとサーチを行います。

⑩ OPEN/CLOSEボタン

ディスクトレーを開閉します。

⑪ DISPLAYボタン

ディスプレーに表示される時間情報や文字情報の内容を切り換えます。

このボタンを押すと、現在ディスプレーに表示している情報の種類を2秒間表示します。その間に再度このボタンを押すと、表示内容の種類を切り換えます。表示できる情報は、カレントソース、ディスクの種類や動作状態によって変わります。（ → 26ページ「時間や文字情報の表示」）、（ → 29ページ「ディスプレーの表示」）

⑫ PAIRINGボタン

このボタンを長く押すと、Bluetoothのペアリングモードになります。

ペアリング中にこのボタンを長く押すと、ペアリングモードを中止します。（ → 28ページ「ペアリング」）

⑬ PROGRAM EDITボタン

プログラムの設定、確認、編集を行うときに使います。(→ 23ページ「プログラム再生」)

⑭ DEVICE SELボタン

Bluetoothで接続（接続待機）する機器名を2秒間表示します。その間に再度このボタンを押すと、Bluetoothで接続（接続待機）する機器を切り替えます。(→ 28ページ「Bluetooth機器の検索」)

⑮ ー／+ボタン

CD再生に対するピッチコントロールの値を設定します。(→ 27ページ「ピッチコントロール」)

⑯ STOPボタン

このボタンを押すと、再生を停止します。

プログラム設定モード起動中にこのボタンを押すと、登録した全てのプログラムがクリアされます。(→ 23ページ「プログラムを設定する」)

⑰ PLAY/PAUSEボタン

停止中または一時停止中に押すと、再生を開始します。

再生中に押すと、一時停止状態になります。

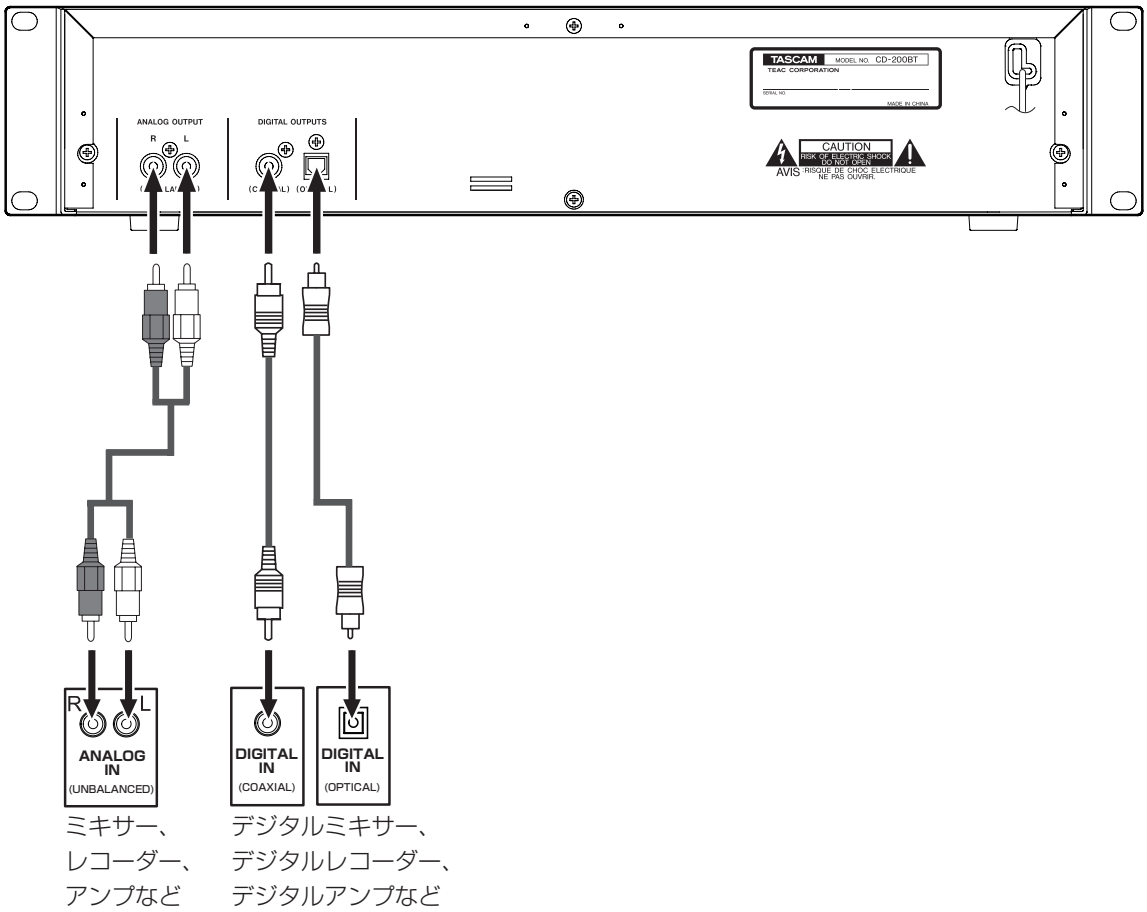
第3章　準備

接続する

以下に、CD-200BTの接続例を示します。

接続前の注意

- 接続を行う前に、外部機器の取扱説明書をよくお読みになり、正しく接続してください。
- 本機および接続する機器の電源を全てオフまたはスタンバイ状態にします。
- 各機器の電源は、同一のラインから供給するように設置します。テーブルタップなどを使う場合は、電源電圧の変動が少なくなるように、電流容量が大きい太いケーブルをご使用ください。



アナログオーディオ機器との接続

本機のアナログ出力端子をステレオアンプ、ミキサー、レコーダーなどのアナログ入力端子に接続します。

メモ

- 本機には、ケーブルが付属されていません。
- ピンコードは、電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質の低下や雑音の原因となります。

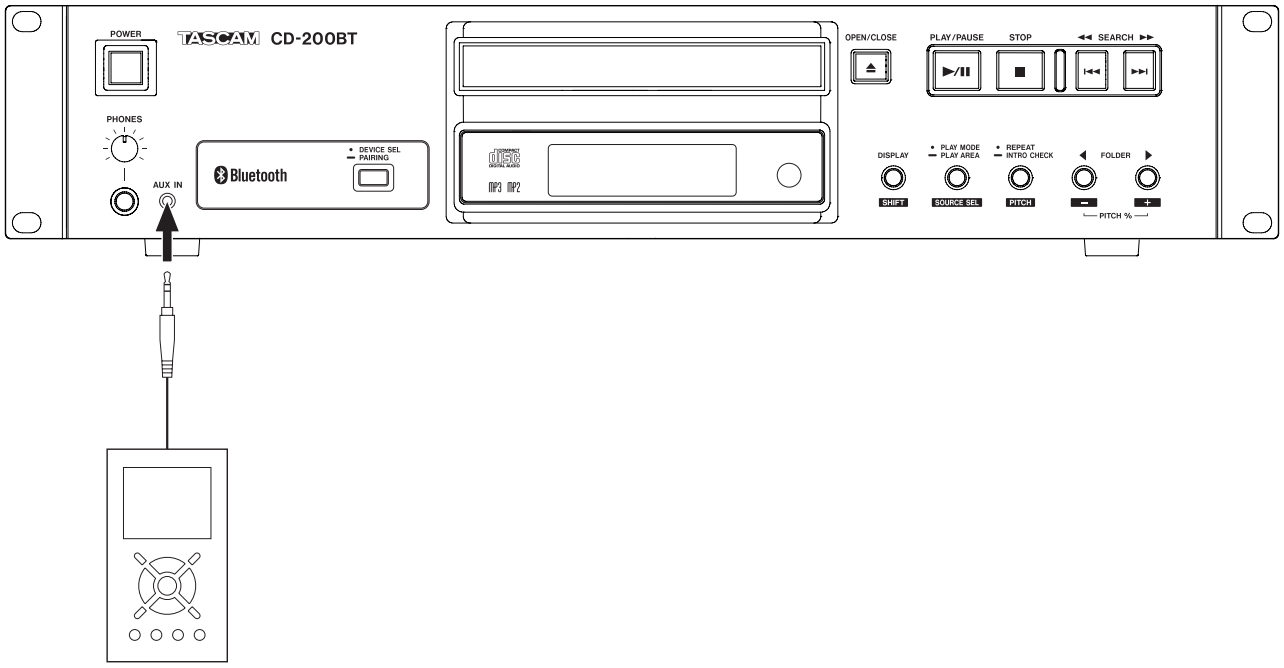
デジタルオーディオ機器との接続

本機のデジタル出力端子（COAXIALまたはOPTICAL）をステレオアンプ、ミキサー、レコーダーなどのデジタル入力端子に接続します。

メモ

- Bluetoothの再生音声信号と**AUX IN**端子の入力信号は、アナログ出力のみとなっております。デジタル出力はされません。
- 本機のデジタル出力のサンプリング周波数は、再生ディスク／再生ファイルのサンプリング周波数に関わらず44.1kHzとなります。
- CD再生時、ピッチコントロール機能がオンのときもデジタル出力しますが、ピッチコントロール値の分だけサンプリング周波数は変動します。ピッチコントロール機能がオンのとき、機器によっては本機のデジタル出力を受信できない場合があります。

外部入力端子への接続



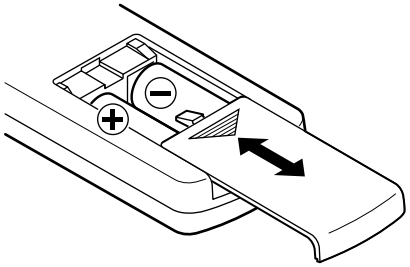
外部入力端子（**AUX IN**端子）にポータブルオーディオプレーヤーなどの音声出力を接続することにより、本機の出力端子からオーディオプレーヤーの音声を出力することができます。なお、AUX IN端子は入力レベル調節がありません。外部機器側で出力レベルを調節してください。

注意

- 外部機器を**AUX IN**端子に接続する前には、外部機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
- **AUX IN**端子への抜き差しをする際は、カレントソースをAUX IN以外（CDもしくはBluetooth）に変更するか、本機の電源をオフにしてから行ってください。

リモコンを準備する

乾電池の入れ方



1. 裏側の蓋を開けます。
2. ⊕、⊖の向きに注意して、単3形乾電池を2本挿入します。
3. 蓋を閉めます。

乾電池の交換時期

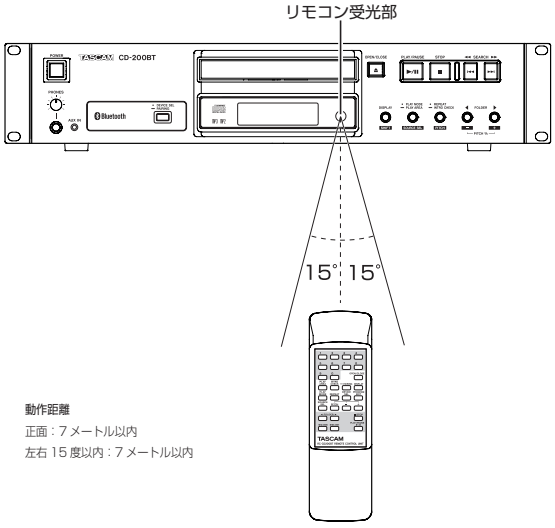
操作範囲が狭くなったり、操作ボタンを押しても動作しない場合は、2本同時に新しい乾電池に交換してください。
使い終わった電池は電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村指定の廃棄方法に従って捨ててください。

乾電池についての注意

乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。乾電池の注意表示、および本書4ページをよくお読みください。

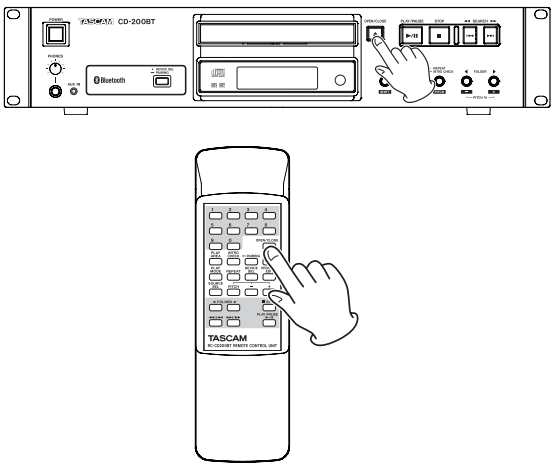
リモコン使用上の注意

- 赤外線によりコントロールする他の機器を使用時に、本機のリモコンを操作すると、その機器を誤動作させることがあります。
- リモコンは、以下の範囲内でご使用ください。



CDをセットする

CDをセットするには、本体またはリモコンの**OPEN/CLOSE**ボタンを押してディスクトレーを開き、レーベル面を上にしてディスクをのせます。
再度**OPEN/CLOSE**ボタンを押して、ディスクトレーを閉じます。
ディスクをセットすると本機がディスクの情報を読み取り、オーディオCDの場合は総トラック数と総再生時間、データCDの場合はカレントフォルダーもしくはディスク全体の総トラック数を、ディスプレーに表示します。

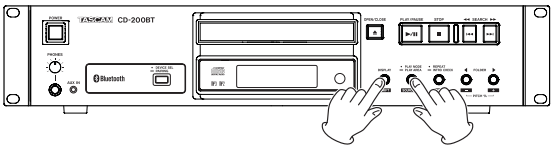


メモ

- カレントソースがCDのとき、上記で**OPEN/CLOSE**ボタンを押して、ディスクトレーを閉じる代わりに**PLAY/PAUSE**ボタンを押すと、ディスクトレーを閉じて再生が始まります。
- 本機を使用中にディスクトレーを開くと、以下の設定が消去されます。
  - プログラム
  - カレントフォルダー（データCDの場合）

出力する音源（カレントソース）を選択する

本機の出力音声信号は、CDの再生音、Bluetoothで受信した音声、AUX IN端子からの入力音の中から選択ができます。
本体のDISPLAY [SHIFT] ボタンを押しながらPLAY MODE / PLAY AREA [SOURCE SEL] ボタンを押す、またはリモコンのSOURCE SELボタンを押します。



この操作でカレントソースが以下の順で切り換わります。

→ CD → Bluetooth → AUX IN

[カレントソース・切り換え順]

[カレントソース・CD選択時のディスプレー表示]

[カレントソース・Bluetooth選択時のディスプレー表示]

[カレントソース・AUX IN選択時のディスプレー表示]

注意

- AUX IN端子については、機器が接続されていない場合は選択できません。
- カレントソースをCDからBluetoothに切り換えたとき、CDが再生中または再生待機中であれば、CDを停止します。また、出力ソース音をBluetoothからAUX IN端子に切り換えたとき、Bluetoothで接続中の機器の再生を停止します。

メモ

カレントソースを切り換えても、CDの再生モードの設定、カレントフォルダー、プログラム内容は消去されません。

第4章　CDの再生

CDに収録されているトラックや音楽ファイルの再生機能を説明します。
以下の説明では、トラックや音楽ファイルが記録されたCDが本機にセットされ、本機の電源がオンになっていて、カレントソースがCDになっていることを前提にしています。(→ 19ページ「出力する音源（カレントソース）を選択する」)

再生可能なディスク／ファイル

本機は、以下のディスク／ファイルを再生することができます。

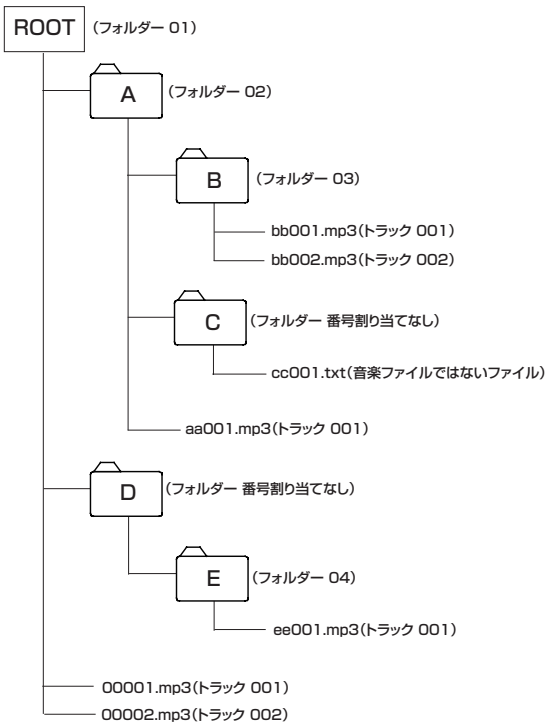
- **CD-DA（オーディオCD）形式のディスク**
  市販の音楽CDや、オーディオCD形式で作成したCD-R、CD-RWディスクを再生できます。本書では、これらのディスクを「オーディオCD」と呼びます。
- **データCD形式のディスク**
  記録方式がISO9660 Level1およびLevel2, Jolietで、MP3、MP2ファイルやWAVファイルを収録したCD-ROM ／ R ／ RWディスクを再生できます。本書では、これらのディスクを「データCD」と呼びます。

メモ

- 本機は、ファイナライズされていないCD-R、CD-RWディスクは再生できません。
- 再生可能なサンプリング周波数やビットレートに関しては巻末の「再生ファイル形式」を参照してください。
- 本機のデジタル出力のサンプリング周波数は、再生ディスク／再生ファイルのサンプリング周波数に関わらず44.1kHzとなります。ピッチコントロール機能がオンのときもデジタル出力しますが、ピッチコントロール値の分だけサンプリング周波数は変動します。ピッチコントロール機能がオンのとき、機器によっては本機のデジタル出力を受信できない場合があります。
- 本機のディスプレーには、半角のアルファベットと数字（1バイト文字）しか表示できません。ファイル名に日本語や中国語などの全角文字（2バイト文字）が使われている場合は、再生が可能ですが、ディスプレーに表示する際“_”に置換します。
- MP3 ／ MP2ファイルの認識は、ファイル拡張子「.mp3」または「.mp2」で行います。ファイル名には、必ず拡張子「.mp3」または「.mp2」を付けてください。拡張子「.mp3」または「.mp2」のないファイルは、本機では再生できません。また、ファイル名に拡張子「.mp3」または「.mp2」がついていても、MP3またはMP2データ形式でないファイルは再生できません。
- WAVファイルの認識は、ファイル拡張子「.wav」で行います。ファイル名には、必ず拡張子「.wav」を付けてください。
  拡張子「.wav」のないファイルは、本機では再生できません。また、ファイル名に拡張子「.wav」がついていても、WAVデータ形式でないファイルは再生できません。
- データCDで、1000以上のファイルまたは513以上のフォルダーが記録されたディスクは、正常に再生できないことがあります。
- ディスクの状態によっては、本機で再生できなかったり、音が途切れることがあります。

データCDのフォルダーとトラックについて

本機は、データCD上の音楽ファイルを「トラック」として扱います。データCDの中には、通常のパソコンのファイルの扱いと同じように、ファイルをフォルダーに収納しているものがあります。さらに、いくつかのフォルダーをまとめて1つのフォルダーに収めるといった、複数階層構造（最大階層：16）のものもあります。
本機のフォルダーサーチ機能では、音楽ファイルのあるフォルダー間をフォルダーサーチ操作で相互に行き来できます。移動の順序は、階層の浅いフォルダーから階層の深いフォルダー（サブフォルダー）に向かって行く方向です。
データCDのルートに音楽ファイルがある場合は、ルートも1つのフォルダーとして扱います。
すぐ下の階層に音楽ファイルが収納されていないフォルダーには、フォルダーサーチの対象となりません。たとえば、下図のような構成のディスクの場合は、フォルダー CとフォルダーDはフォルダーサーチの対象となりません。



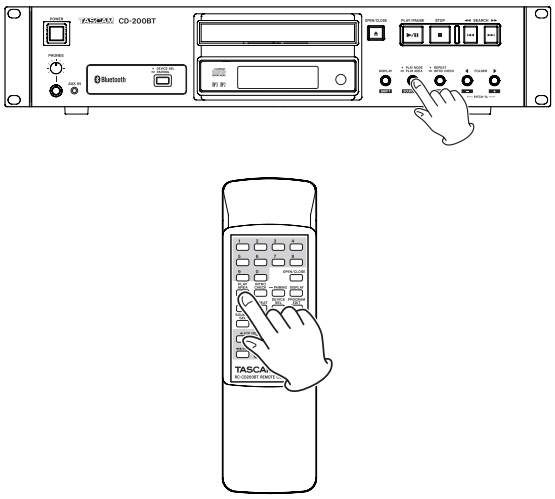
〈データCDの構成例〉

再生範囲

データCDでは、再生範囲を設定して再生することができます（PLAY AREA設定）。
再生範囲の設定を行うには、以下の操作を行います。

再生範囲を設定する

本体の**PLAY MODE ／ PLAY AREA [SOURCE SEL]** ボタンを長く押す、またはリモコンの**PLAY AREA**ボタンを押して、再生範囲を設定します。



ディスプレーのメイン表示部にも選択した再生範囲が次のように表示され、約2秒後に消えます。また、選択した再生範囲によって、ディスプレーの**“FOLDER”**を表示／非表示します。

メイン表示部表示	FOLDER表示	内容
ALL PLAY	表示なし	CD内の全ファイルを再生します。
FOLDER	表示	データCD内の選択したフォルダー内の全ファイルを再生します。

再生モード

本機には、以下の4種類の再生モードで、トラックを再生することができます。

連続再生モード（初期設定）
CDのトラック番号順に再生します。

メモ

データCDで再生範囲が**“FOLDER”**のとき、再生中のフォルダー内のトラックを番号順に再生します。

シングル再生モード
CD上の選択したトラックを再生し、再生が終わると停止します。

ランダム再生モード
CD上のトラックを、トラック番号に関係なくランダムに再生します。全トラックの再生を終えると停止します。

メモ

データCDで再生範囲が**“FOLDER”**のとき、カレントフォルダー内のトラックをランダムに再生します。（→ 23ページ「フォルダー再生（データCD）」）

プログラム再生モード
プログラムした順序でトラックを再生します。詳しくは、「プログラム再生」（23ページ）をご覧ください。

再生モードを選択する

本体の**PLAY MODE ／ PLAY AREA [SOURCE SEL]** ボタンまたはリモコンの**PLAY MODE**ボタンを押すたびに、再生モードが切り換わります。ただし、再生中に押すと連続再生モード、シングル再生モードとランダム再生モードの間で切り換わります。
プログラム再生を選択するには、停止中またはCDをセットしていないときに本体の**PLAY MODE ／ PLAY AREA [SOURCE SEL]** ボタンまたはリモコンの**PLAY MODE**ボタンを押してください。
現在選ばれている再生モードは、次のようにディスプレーに表示されます。

表示	再生モード
表示なし	連続再生モード
SNGL	シングル再生モード
RAND	ランダム再生モード
PROG	プログラム再生モード

選択した再生モードは、電源を切っても保持されます。

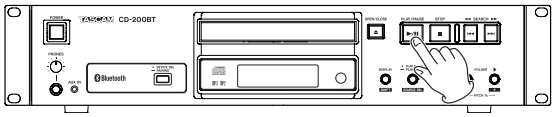
メモ

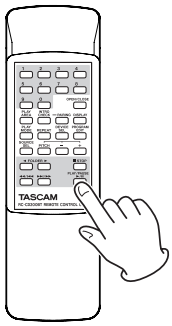
本体の**PLAY MODE ／ PLAY AREA [SOURCE SEL]** ボタンまたはリモコンの**PLAY MODE**ボタンを押した直後、ディスプレーのメイン表示部にも選択した再生モードが次のように表示されます。

連続再生モード選択時　：**CONTINUE**
シングル再生モード選択時　；**SINGLE**
ランダム再生モード選択時　：**RANDOM**
プログラム再生モード選択時　：**PROGRAM**

再生する

以下の説明では、必要な接続を終え、本機の電源がオンになっていて、CDをセットしていることを前提にしています。
再生を始めるには、本体またはリモコンのPLAY/PAUSEボタンを押します。





● **再生を停止するには**
本体またはリモコンのSTOPボタンを押します。

● **再生を一時停止するには**
本体またはリモコンのPLAY/PAUSEボタンを押します。

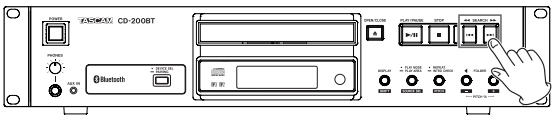
なお、この取扱説明書では、特に断らない限り、再生モードが連続再生モードに設定されているものとして説明しています。（ → 21ページ「再生モード」）

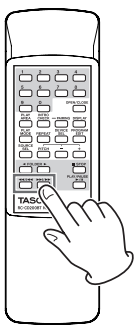
トラックを選ぶ

トラックを選ぶ方法には、前後のトラックに移動する方法（スキップ）と、トラック番号を直接指定する方法があります。

前後のトラックにスキップする

本体のSEARCH ◀◀ ／ ▶▶ [I◀◀ ／ ▶▶I] ボタンまたはリモコンのサーチボタン（◀◀ ／ I◀◀ボタンまたは▶▶I ／ ▶▶ボタン）を押します。
トラックを選択した後、本体またはリモコンのPLAY/PAUSEボタンを押すと、トラックの再生が始まります。





メモ

再生中に本体のSEARCH ◀◀ ／ ▶▶ [I◀◀ ／ ▶▶I] ボタンまたはリモコンのサーチボタン（◀◀ ／ I◀◀ボタンまたは▶▶I ／ ▶▶ボタン）を押した場合は、トラックスキップ後に再生を継続します。

トラック番号を指定する

リモコンの数字ボタン（0 ～ 9ボタン）を使用して、再生するトラック番号を直接指定することができます。
トラック番号は、オーディオCDの場合は最大2桁、データCDの場合は最大3桁です。

1. リモコンの数字ボタン（0 ～ 9ボタン）を使って、トラック番号を入力します。トラック番号は、大きい桁の数字から順に入力します。
   ● **トラック1を指定する場合：**
   1ボタンを1回押す。
   ● **トラック12を指定する場合：**
   1ボタン ➡ 2ボタンの順に押す。
2. 本体またはリモコンのPLAY/PAUSEボタンを押します。
   選択したトラックの再生が始まります。
   本体またはリモコンのSTOPボタンを押すと、トラック番号入力表示が消えて、もとの表示に戻ります。

メモ

- 再生中のトラック番号表示は、最大999までです。トラック番号が1000以上は“---”と表示されます。
- 再生範囲が“ALL PLAY”のとき、本体またはリモコンのFOLDER ◀ ／ ▶ボタンを使ってフォルダー単位でトラックスキップします。
- プログラム、ランダムモード時は、数字ボタン（0 ～ 9ボタン）を使ったトラック指定ができません。

早送り／早戻しサーチ

音声を聴きながらトラック内を早送り／早戻しサーチすることができます。

1. 希望のトラックを再生または一時停止にします。
2. 本体のSEARCH ◀◀ ／ ▶▶ [I◀◀ ／ ▶▶I] ボタンまたはリモコンのサーチボタン（◀◀ ／ I◀◀ボタンまたは▶▶I ／ ▶▶ボタン）を押し続けます。
   早送り／早戻しサーチが始まります。
3. サーチを止めるには、押し続けているボタンを離します。
   サーチを始める前の状態（再生または一時停止）に戻ります。

メモ

オーディオCD以外でも早送り／早戻しサーチは可能です。

フォルダー再生（データCDのみ）

データCDの場合は、指定したフォルダー（＝カレントフォルダー）を再生範囲にすることができます。以下に説明する方法で再生するフォルダーを指定することができます。ただし、再生範囲を **“ALL PLAY”** に指定することにより、ディスク全体を再生範囲にすることができます。

再生するフォルダーを選択する

1. 本体の**PLAY MODE ／ PLAY AREA [SOURCE SEL]** ボタンを長く押す、またはリモコンの**PLAY AREA**ボタンを押して、再生範囲を **“FOLDER”** に設定します。
2. 本体の**FOLDER ◀ ／ ▶ [PITCH −／+]** ボタン、またはリモコンの**FOLDER ◀ ／ ▶** ボタンを押すことによって、前後のフォルダーに移動することができます。
   それぞれ、手前または次のフォルダーの先頭トラックの冒頭に移動します。なお、本体の**FOLDER ◀ ／ ▶ [PITCH −／+]** ボタン、またはリモコンの**FOLDER ◀ ／ ▶** ボタンを押したままにすると、順にフォルダーを移動します。

メモ

- フォルダーの移動に従ってカレントフォルダーが切り換わります。
- フォルダー再生中にリピート再生を行うと、カレントフォルダー内のトラックをリピート再生します。
- フォルダー再生中にランダム再生を行うと、カレントフォルダー内のトラックをランダム再生します。

プログラム再生

プログラム再生を行うには、再生モードをプログラム再生モードにしてからプログラムを設定するか、あるいはあらかじめプログラムを設定してからプログラム再生モードにします。（→ 21ページ「再生モードを選択する」）
プログラム再生モード中、本体またはリモコンの**PLAY/PAUSE** ボタンを押すと、設定しているプログラムの1トラック目（プログラムステップ1）から順に再生を行います。
本体の**SEARCH ◀◀ ／ ▶▶ [I◀◀ ／ ▶▶I]** ボタンまたはリモコンのサーチボタン（**◀◀ ／ I◀◀** ボタンまたは**▶▶I ／ ▶▶** ボタン）を押すと、手前／次のプログラムステップにスキップします。
プログラム再生モードでは、オーディオCDの場合は、停止中にプログラム数と総プログラム時間が表示されます。
データCDの場合は、プログラム数のみ表示されます。

メモ

- プログラム再生を選択するには、停止中に本体の**PLAY MODE ／ PLAY AREA [SOURCE SEL]** ボタンまたはリモコンの**PLAY MODE**ボタンを押してください。
- データCDの場合、再生範囲が **“ALL PLAY”** を選択している時はプログラムを設定することができません。再生範囲を **“FOLDER”** に選択するとカレントフォルダー内のトラックがプログラムの設定対象となります。

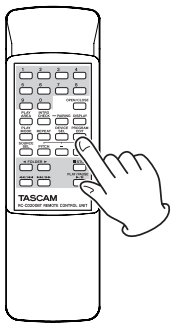
プログラムを設定する

プログラムが設定されていない場合は、以下の手順でリモコンを使ってプログラムを設定することができます。

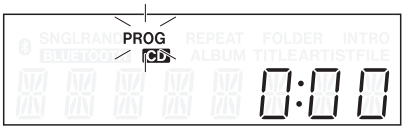
メモ

- 本体からのプログラムの設定はできません。
- 現在の再生モードに関わらず、いつでもプログラムを設定することができます。
- ディスクトレーを開く、またはカレントフォルダーを変更するとプログラムが消去されます。

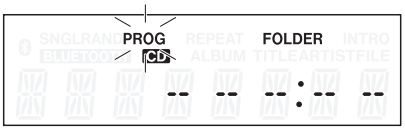
1. 停止中にリモコンの**PROGRAM EDIT**ボタンを押します。



プログラム設定モードを起動し、プログラムが未設定の場合は、プログラムステップ1にトラックを登録できる状態になります（**“PROG”** 点滅表示）。



[オーディオCDの場合のディスプレー表示例]



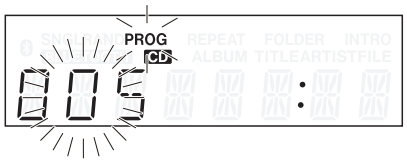
[データCDの場合のディスプレー表示例]

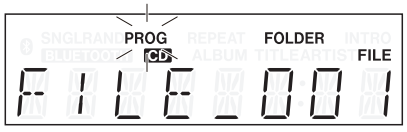
メモ

プログラムがすでに設定されている場合は、プログラムステップ1に登録されているトラック番号が表示されます。

2. リモコンの数字ボタン（0～9ボタン）またはサーチボタン（◀◀ ／ ⏮◀◀ボタンまたは▶▶⏭ ／ ▶▶ボタン）を使って、プログラムステップ1に登録するトラックを選びます（**“PROG”**とトラック番号が点滅表示）。
数字ボタン（0～9ボタン）を使った場合は、大きい桁から順に入力されます。

[オーディオCDの場合のディスプレー表示例]



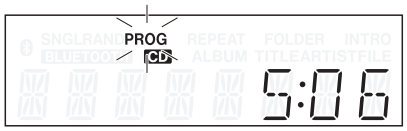


[データCDの場合のディスプレー表示例]

メモ

- データCDの場合は、リモコンの数字ボタン（0～9ボタン）またはサーチボタン（◀◀ ／ ⏮◀◀ボタンまたは▶▶⏭ ／ ▶▶ボタン）を押してから1秒以上経過すると、ディスプレーがファイル名表示に切り換わりますが、プログラムの設定は可能です。
- トラックを選択した状態でSTOPボタンを押すと、トラック選択が中止され、再びトラックを選択できる状態に戻ります。

3. リモコンのPROGRAM EDITボタンを押します。
選んだトラックがプログラムステップ1に登録され、次のプログラムステップを登録できる状態になります。



4. 上記の手順2.と3.を繰り返して、希望のトラックを順次、登録していきます。

5. プログラムの設定を終えたら、次のプログラムステップにトラックを登録できる状態のときに再度リモコンのPROGRAM EDITボタンを押します。
プログラム設定モードを終了します。

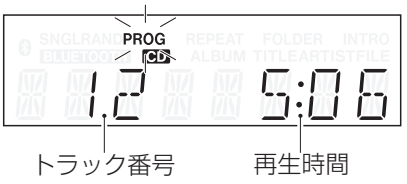
メモ

- 同じトラックを繰り返し登録することも可能です。
- 次のプログラムステップにトラックを登録できる状態のときにSTOPボタンを押すと、プログラムが全て消去されます。
- 100トラック以上を登録しようとすると、エラーメッセージ**“PGM FULL”**が表示されます。登録できるのは、99トラックまでです。

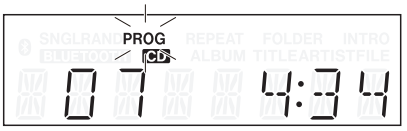
プログラムを確認する

プログラムの内容を確認することができます。

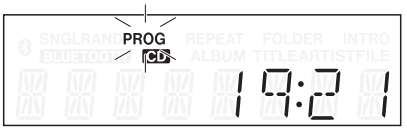
1. 停止中にリモコンのPROGRAM EDITボタンを押して、プログラム設定モードを起動します。
ディスプレーにプログラムステップ1に登録されているトラック番号と再生時間が表示され（データCDの場合は再生時間が表示されません）、**“PROG”**が点滅表示します。



2. PROGRAM EDITボタンを押すたびに、次のプログラムステップの登録トラック情報が表示されます。



3. 最後のプログラムステップを表示中にPROGRAM EDITボタンを押すと、トラックを登録できる状態（トラック番号表示がなく、**“PROG”**が点滅表示）になります。



4. 再度PROGRAM EDITボタンを押すと、プログラム設定モードを終了します。

プログラムトラックを差し替える

すでに登録されているトラックを差し替えることができます。

1. 停止中にリモコンのPROGRAM EDITボタンを押して、本機をプログラム設定モードにします。

2. 上記「プログラムを確認する」に従い、PROGRAM EDITボタンを押して、トラックを差し替えたいプログラムステップを表示します。

3. リモコンの数字ボタン（0～9ボタン）またはスキップボタン（◀◀ ／ ⏮◀◀ボタンまたは▶▶⏭ ／ ▶▶ボタン）を使って希望のトラックを選択し、PROGRAM EDITボタンを押します。
差し換えが完了し、新たなプログラムステップにトラックを登録できる状態になります。

4. 再度PROGRAM EDITボタンを押して、プログラム設定モードを終了します。

プログラムトラックを追加する

設定されているプログラムの最後に、トラックを追加することができます。

1. 停止中にリモコンのPROGRAM EDITボタンを押して、プログラム設定モードを起動します。
2. PROGRAM EDITボタンを押し続けて、新たなプログラムステップにトラックを登録できる状態（トラック番号表示がなく、**“PROG”**が点滅表示）にします。
3. リモコンの数字ボタン（0～9ボタン）またはスキップボタン（◀◀ ／ ⏮◀◀ボタンまたは▶▶⏭ ／ ▶▶ボタン）を使って追加するトラックを選択し、PROGRAM EDITボタンを押します。
4. この状態で手順3.と同じ操作を行うと、さらにトラックを追加することができます。あるいはPROGRAM EDITボタンを押すと、プログラム設定モードを終了します。

メモ

- プログラムの最後にトラックを追加したり、プログラムトラックを差し替えることはできますが、プログラムの途中にトラックを挿入することはできません。
- プログラムの途中にトラックを挿入したい場合は、プログラムトラックの差し替えと追加を使って、プログラムの内容を修正してください。

プログラムを消去する

設定されているプログラム全体を消去することができます。

1. 停止中にリモコンのPROGRAM EDITボタンを押して、プログラム設定モードを起動します。
2. PROGRAM EDITボタンを押し続けて、新たなプログラムステップにトラックを登録できる状態（トラック番号表示がなく、**“PROG”**が点滅表示）にします。
3. リモコンのSTOPボタンを押します。
   ディスプレーに**“-CLEAR-”**を表示してプログラムが消去された後、プログラム未登録時のプログラム設定モードになります。

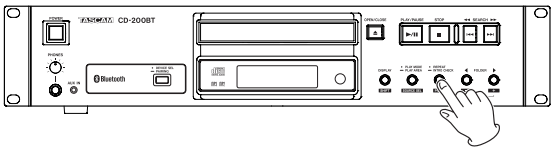
上記の他に、ディスクトレーを開いたり、またはディスクを抜いた場合もプログラムが消去されます。

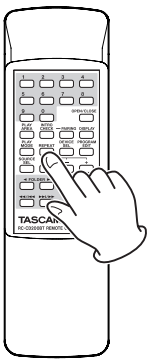
メモ

CDのプログラムは、ディスクトレーを開く、またはカレントフォルダーを変更するとプログラムが消去されます。

リピート再生

再生範囲の全トラックを、繰り返し再生することができます。
本体のREPEAT / INTRO CHECK [PITCH] ボタンまたはリモコンのREPEATボタンを押して、リピート再生機能のオン／オフを選択することができます。





リピートオン（ディスプレーに“REPEAT”を表示）
全トラックを繰り返し再生します。

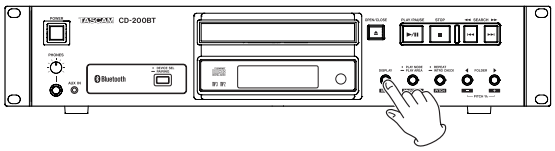
リピートオフ（表示なし）
リピート再生しません。

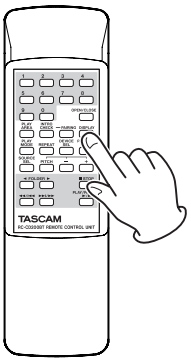
メモ

- データCDのフォルダー再生時は、フォルダー内の全トラック。プログラム再生時は、プログラム内の全トラックが対象となります。
- 再生中にリピート再生機能をオンにした場合は、そのまま再生を続け、最後まで再生すると先頭に戻って再生を続けます。
  停止中にオンにした場合は、PLAY/PAUSEボタンを押すとリピート再生が始まります。
- リピート再生機能のオン／オフ設定は、電源を切っても保持されます。

時間や文字情報の表示

ディスプレーに表示される時間表示や文字情報の内容を選択することができます。
本体のDISPLAY [SHIFT] ボタンまたはリモコンのDISPLAYボタンを押すと、ディスプレーのメイン表示部に現在選択されている情報（再生時間や文字情報）の種類が2秒間表示されます。
その間に再び本体のDISPLAY [SHIFT] ボタンまたはリモコンのDISPLAYボタンを押すと、表示情報の種類が切り換わります。
なお、カレントソースやセットしているディスクの種類や状態、および本機の動作状態によって、切り換わる表示情報の種類が異なります。





CDテキストを含むオーディオCD

再生中／一時停止中は、「トラック経過時間→トラック残時間→総残時間→トラックタイトル→トラックアーティスト→」の間で表示する情報を切り換えることができます。
停止中も切り換えできますが、アルバムタイトル／アルバムアーティスト以外は総トラック数と総時間を表示します。

CDテキストを含まないオーディオCD

再生中／一時停止中は、「トラック経過時間→トラック残時間→総残時間→」の間で表示する情報を切り換えることができます。
停止中も切り換えできますが、総トラック数と総再生時間を表示します。

データCD

再生中／一時停止中は、「トラック経過時間→トラックタイトル→トラックアーティスト→ファイルネーム→」の間で表示する情報を切り換えることができます。
停止中は、「トラック経過時間→アルバムタイトル→」のみ切り換えできます。
停止中、タイトルに切り換えた場合はアルバムタイトル（カレントフォルダー）を表示し、それ以外は総トラック数を表示します。

メモ

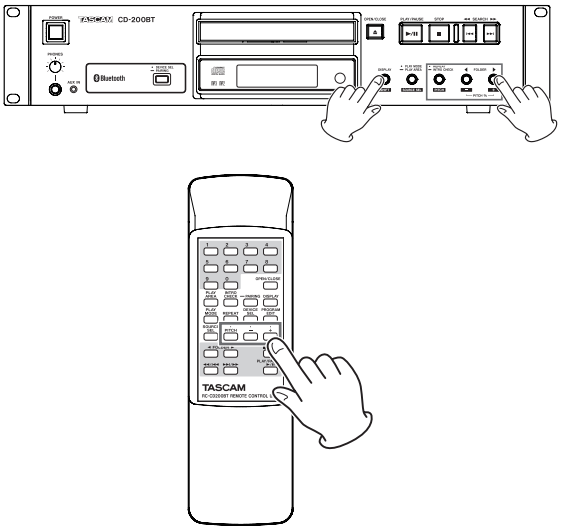
- カレントソースがBluetoothのときの表示については、29ページ「ディスプレーの表示」を参照してください。
- 本体のDISPLAY [SHIFT] ボタンまたはリモコンのDISPLAYボタンを押してから2秒間、ディスプレーのメイン表示部に、現在選択中の表示情報の種類が以下のように表示されます。

トラック経過時間	：**“ELAPSED”**
トラック残時間	：**“REMAIN”**
総残時間	：**“T REMAIN”**
アルバム／トラックタイトル	：**“TITLE”**
アルバム／トラックアーティスト	：**“ARTIST”**
ファイルネーム	：**“FILENAME”**

- ディスプレーに表示される文字情報は、オーディオCDの場合はCDテキスト情報、データCDの場合はID3タグ情報です。
  これらの情報がディスクやファイルに記録されていない場合は、**“NO TITLE”**（タイトル情報のとき）か**“NO NAME”**（アーティスト情報のとき）と表示します。情報に表示できない文字が含まれている場合は、該当文字を**“_”**に置換して表示します。
- オーディオCDでのプログラム再生モード中は、プログラム全体の経過時間や残時間を表示します。
- 表示内容の設定は、電源を切っても保持されます。

ピッチコントロール

CDのピッチ（音の高さと再生の速さ）を変えて再生することができます（ピッチコントロール再生）。
ピッチコントロール再生を行うには、以下の操作を行います。



1. 本体のDISPLAY [SHIFT] ボタンを押しながら、REPEAT / INTRO CHECK [PITCH] ボタンを押すか、リモコンのPITCHボタンを押して、ピッチコントロール再生をオンにします。このとき、現在のピッチコントロール値を表示します。

2. 本体のDISPLAY [SHIFT] ボタンを押しながら、本体のFOLDER ◀ ／ ▶ [PITCH −／+] ボタンを押か、またはリモコンの−／+ボタンを使ってピッチを設定します。
−14%～+14%（0.5%単位）の範囲で設定することができます。

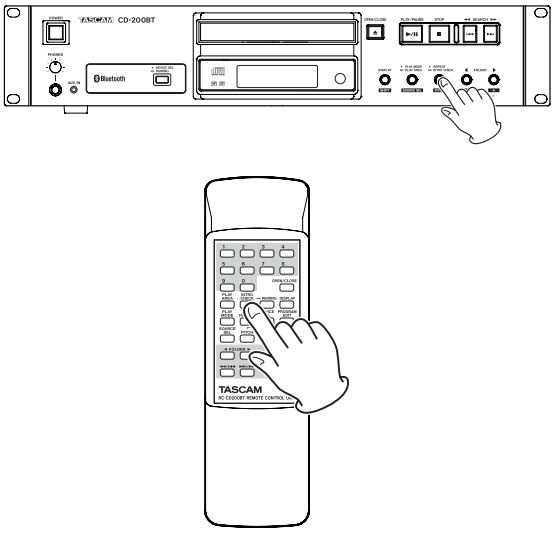
● **ピッチコントロール再生をオフにするには；**
本体のDISPLAY [SHIFT] ボタンを押しながら、REPEAT / INTRO CHECK [PITCH] ボタンを押すか、リモコンのPITCHボタンを押します。

メモ

- 再生中にピッチコントロール再生のオン／オフを切り換えると、再生音が一瞬途切れることがあります。
- データCD（MP3、MP2、WAV）をピッチコントロール再生すると、再生音が途切れる場合があります。
- ピッチコントロール機能がオンのときもデジタル出力しますが、ピッチコントロール値の分だけサンプリング周波数は変動します。ピッチコントロール機能がオンのとき、機器によっては本機のデジタル出力を受信できない場合があります。
- ピッチコントロール機能は、Bluetoothには使用できません。

イントロチェック

停止中あるいは再生中に本体のREPEAT ／ INTRO CHECK [PITCH] ボタンを長く押す、またはリモコンのINTRO CHECKボタン押すと、**“INTRO”** を表示して収録されている個々のトラックの冒頭の部分（10秒間）だけを次々と再生します。
イントロチェック中にもう1度本体のREPEAT ／ INTRO CHECK [PITCH] ボタンを長く押す、またはリモコンのINTRO CHECKボタン押すと、**“INTRO”** の表示を消して通常の再生モードに戻ります。



- イントロチェック中に本体のSEARCH ◀◀ ／ ▶▶ [I◀◀ ／ ▶▶I] ボタンまたはリモコンのサーチボタン（◀◀ ／ I◀◀ボタンまたは▶▶I ／ ▶▶ボタン）を短く押すと、前後のトラックへスキップします。
- イントロチェックを停止するには、STOPボタンを押します。
- プログラムモードやフォルダー再生モードでもイントロチェックは可能です。

注意

イントロチェック機能は、Bluetoothには使用できません。

第5章　Bluetooth機器の再生

本機では、Bluetooth（A2DP）に対応したパソコンやポータブルオーディオ機器など（Bluetooth機器）からの音声を出力することができます。また、Bluetooth機器が AVRCPに対応している場合は、本機の**PLAY/PAUSE**ボタンなどで Bluetooth機器の再生をコントロールできます。

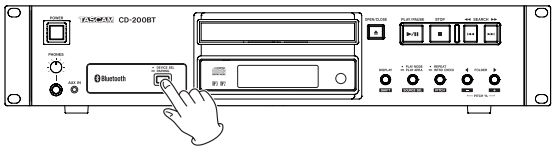
ペアリング

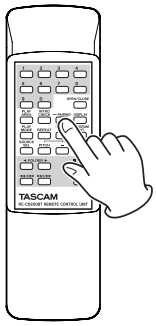
Bluetooth機器と通信を行うには、まず以下の手順でペアリングを行います。

メモ

ペアリングを行うには、Bluetooth機器の操作も必要です。
操作方法は、お使いのBluetooth機器の取扱説明書をご覧ください。

1. 本体の**DEVICE SEL** ／ **PAIRING**ボタンを長く押すか、リモコンの**PAIRING**ボタンを長く押します。





ディスプレーに **“PAIRING”** と点滅表示し、**“ᛒ”** アイコンが早く点滅します。

2. Bluetooth機器をBluetooth通信状態に設定します。

3. Bluetooth機器から、本機（CD-200BT）を選択します。
ペアリングに成功すると、ディスプレーに **“PAIRED”** と表示し、その機器と接続します。

メモ

- 一度ペアリングすれば、再びペアリングする必要はありません。ペアリング後は、対象Bluetooth機器を検索して接続します。
- 本機で記憶できるペアリング情報は、最大で８台分です。８台を超えてペアリングを行った場合は、最も古いペアリング情報に新しい情報を上書きします。
- ペアリング中に本体の**DEVICE SEL** ／ **PAIRING**ボタンまたはリモコンの**PAIRING**ボタンを押すと、ディスプレーに **“CANCELED”** と表示し、ペアリング動作を中止します。
- 古いBluetooth機器では、ペアリング時にパスキーを求められることがあります。その際は、**“0000”** を入力してください。

Bluetooth機器の検索

本機では、ペアリング済みのBluetooth機器から１つを選択し、その機器のみ検索して接続します。
本体の**DEVICE SEL** ／ **PAIRING**ボタンを押す、またはリモコンの**DEVICE SEL**ボタンを押すと、ディスプレーに現在接続しているBluetooth機器名もしくは検索しているBluetooth機器名が２秒間点滅表示されます。
その間に再び本体の**DEVICE SEL** ／ **PAIRING**ボタンを押す、またはリモコンの**DEVICE SEL**ボタンを押すと、検索するBluetooth機器を切り換えます。

メモ

ペアリング済みのBluetooth機器側から本機へ接続を要求したとき、本機が他のBluetooth機器と接続していない場合は、接続要求を受け入れ、そのBluetooth機器と接続します。

コントロール範囲

接続したBluetooth機器がAVRCPに対応している場合に、本体または付属のワイヤレスリモコン（RC-CD200BT）で、Bluetooth機器のコントロールが可能です。

PLAY/PAUSEボタン　　：再生／一時停止
STOPボタン　　：停止
スキップボタン（◀◀ /I◀◀ボタンまたは▶▶I/▶▶ ボタン）
　　：トラック選択およびサーチ

注意

接続したBluetooth機器によっては、正常に動作しない場合があります。

Bluetooth機器の再生

事前にBluetooth機器とのペアリングを行っておくことで、以下の操作でBluetooth機器から再生をすることができます。

1. 本体の**DISPLAY [SHIFT]** ボタンを押しながら**PLAY MODE** ／ **PLAY AREA [SOURCE SEL]** ボタンを押す、またはリモコンの**SOURCE SEL**ボタンを押して、出力ソース音の設定を Bluetooth にします。

2. 選択している（ディスプレーに表示している）Bluetooth機器を検索し、発見次第接続します。
接続すると、ディスプレーに **“CONNECT”** と２秒間表示します。また、**“ᛒ”** アイコンが点灯します。

これで、本体または付属のワイヤレスリモコン（RC-CD200BT）で、Bluetooth機器のコントロール、および本機からBluetooth機器の再生音声出力が可能になります。

ディスプレーの表示

ディスプレーの“ ”アイコンは、Bluetooth機器との接続状態を表示します。

“ ”アイコン状態	接続状態
点滅	未接続（Bluetooth機器の検索中）
点灯	Bluetooth機器デバイスと接続中

カレントソースがBluetoothのとき、ディスプレーに表示される情報（接続機器名、もしくは接続A2DPコーデック）を選択することができます。

本体の**DISPLAY [SHIFT]** ボタンまたはリモコンの**DISPLAY**ボタンを押すと、ディスプレーのメイン表示部に現在選択されている情報の種類が2秒間表示されます。

その間に再び本体の**DISPLAY [SHIFT]** ボタンまたはリモコンの**DISPLAY**ボタンを押すと、表示情報の種類が切り換わります。

接続A2DPコーデック表示は、以下の中からディスプレーに表示します。

[未接続（検索中）表示]

[SBC表示]

[AAC表示]

[aptX表示]

メモ

- 本体の**DISPLAY [SHIFT]** ボタンまたはリモコンの**DISPLAY**ボタンを押してから2秒間、ディスプレーに現在選択中の表示情報の種類が以下のように表示されます。

  接続機器名　　：“DEV NAME”
  接続A2DPコーデック　：“CODEC”

- 接続機器名に表示できない文字が含まれている場合は、該当文字を“_”に置換して表示します。
- ペアリングを行っていない（ペアリング情報の削除を行った）場合は、接続機器名、接続A2DPコーデック共に**“NO PAIR”**と表示します。

ペアリング情報の削除

以下の操作で、本機に記録している全てのペアリング情報を削除できます。

ペアリング情報を削除することで、Bluetooth機器と接続しなくなります。

1. **POWER**スイッチを操作して、本機の電源を切ります。
2. 本体の**PAIRING**ボタンを押しながら**POWER**スイッチを押して、本機の電源を入れます。
   ディスプレーに**“ERASING”**表示が出たら、押している本体の**PAIRING**ボタンを離します。

3. ペアリング情報が削除された後、通常動作を開始します。

第6章　メッセージ

動作メッセージ

本機の動作に応じて、ディスプレーのメイン表示部に以下のメッセージが表示されます。

メッセージ	メッセージ表示 点灯／点滅	内容	対処方法
-AUX-	点灯	カレントソースとして AUX INが選択されています。	
CANCELED	点灯	各種操作を中断しました。	
-CLEAR-	点灯	CDのプログラムを消去しました。	
CLOSE	点灯	ディスクトレーを閉じています。	
CONNECT	点灯	Bluetoothデバイスと接続しました。	
NO DISC	点灯	ディスクがありません／ディスクを検出できませんでした。	
NO FILES	点灯	データCDに再生可能なファイルが1つもありません。	再生可能ファイルの記録されたデータCDをセットしてください。
NO NAME	点灯	表示可能なアーティストデータ／ファイルデータがありません。	
NO PAIR	点灯	ペアリングしていません。	
NO TITLE	点灯	表示可能なタイトルデータがありません。	
OPEN	点灯	ディスクトレーが開いています。	
PAIRED	点灯	ペアリングに成功しました。	
PAIRING	点滅	ペアリング動作中です。	
TOC READ	点灯	TOC情報を読み込んでいます。	

警告メッセージ

操作を受け付けない場合は、以下のような警告メッセージを表示します。約2秒間表示された後、自動的に消えます。

メッセージ	メッセージ表示 点灯／点滅	内容	対処方法
NO PGM	点灯	プログラムが設定されていません。	プログラムを設定してください。
PGM FULL	点灯	プログラム登録がいっぱいです。	プログラム登録は、99曲までです。 プログラムを消去してから登録し直してください。

エラーメッセージ

以下のエラーメッセージが表示されたときは、対処方法を参考に原因を解消してください。それでも改善しない場合は、ティアック修理センター（裏表紙に記載）にご相談ください。

メッセージ	メッセージ表示 点灯／点滅	内容	対処方法
BT ERR	点滅	Bluetoothレシーバーとの通信ができません。	ティアック修理センターにご相談ください。
COMM ERR	点滅	CDドライブとの通信ができません。	ティアック修理センターにご相談ください。
COMM ERR	点灯	CDドライブとの通信でエラーが発生しています。	ティアック修理センターにご相談ください。
DEC ERR	点灯	サポート外のファイルであるか、ファイルを再生できません。	データCDを交換してください。
DISC ERR	点灯	TOCやファイルシステムが読み出せないか、フォーカス調整ができません。	ディスクをクリーニングするか、交換してください。
DRV ERR	点灯	CDドライブのハードウェアが故障しています。	ティアック修理センター（裏表紙に記載）にご相談ください。
READ ERR	点灯	曲にアクセスできません。	ディスクをクリーニングするか、交換してください。

第7章　トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。
それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご連絡ください。

● **電源が入らない。**

↓

- 本機の電源プラグが適切な電源が来ているコンセントにしっかりと差し込まれていますか？

● **リモコンから操作できない。**

↓

- リモコンの電池が入っていないか、消耗していませんか？

● **音が出ない。**

↓

- モニターシステムとの接続をもう一度確認してください。
- アンプの音量や設定を確認してください。

● **雑音がする。**

↓

- 接続ケーブルが接触不良になっていませんか？

● **CDを再生できない。**

↓

- MP3ファイルを収録したデータCDの場合は、本機が対応しているビットレートであるかどうかを確認してください。
- ディスクに傷やよごれが付いていませんか?

● **データCDにて、全曲再生できない。**

↓

- フォルダー再生モードになっていませんか?

● **プログラム再生ができない。**

↓

- 再生範囲が**“ALL PLAY”**になっていませんか？
  データCDの場合は、再生範囲を**“FOLDER”**にする必要があります。

● **音が途切れたり、雑音がする。**

↓

- 無線LANや他のBluetooth機器、電子レンジなどが近くにありませんか？
  なるべくそれらの機器から離してご使用ください。
- Bluetooth機器と本機の距離を近づけてご使用ください。また、Bluetooth機器や本機の位置を変えてください。
- スマートフォンで音楽再生以外のアプリケーションが動作している場合は音が途切れる場合があります。その場合は音楽再生以外のアプリケーションの動作を止めてください。

● **接続ができない、あるいは、通信が途切れる。**

↓

- Bluetooth機器の電源が入っているか、BluetoothがONになっているか確認してください。
- Bluetooth 機器との距離が離れすぎていませんか？
  あるいは、間に壁や障害物などでさえぎられていませんか？
  Bluetooth機器が本体の後面側にある場合、本機自身でさえぎっていることも考えられます。
  Bluetooth機器や本機の位置を変えてください。
- 本機の電源を切り、再度本機の電源をONにしてください。
- Bluetooth 機器の「CD-200BT」の登録を解除し「Bluetooth機器とのペアリングを行う」の操作を行ってください。

● **ペアリングができない。**

↓

- 接続したいBluetooth機器がA2DPおよびAVRCPに対応しているか確認してください。
- 接続したいBluetooth機器の通信が可能な状態になっているか確認してください。詳しくは、お使いのBluetooth 機器の取扱説明書をご確認ください。
- 本機とBluetooth機器の電源を一度切り、再び電源を入れてペアリングを試してください。
- ペアリングしようとするBluetooth機器以外のBluetooth機器の電源を切ってください。
- Bluetooth機器側の「CD-200BT」の登録を一度削除した後、再度ペアリングしてください。

第8章　仕様

定格

対応ディスク

CD、CD-R、CD-RW
（12cm、8cm、マルチセッション、CDテキスト対応）

再生ファイル形式

CD-DA：44.1kHz、16bit ステレオ

MP2：32k/44.1k/48kHz、32kbps ～ 384kbps
（データCD）

MP3：32k/44.1k/48kHz、32kbps ～ 320kbps、VBR
（データCD）

WAV：8k/16k/32k/11.025k/22.05k/44.1k/12k/24k/48kHz、16bit（データCD）

入出力定格

アナログオーディオ入力定格

AUX IN端子

コネクター	：3.5mmステレオミニジャック
基準入力レベル	：−20dBV
最大入力レベル	：−4dBV
入力インピーダンス	：22kΩ

アナログオーディオ出力定格

ANALOG OUTPUT（UNBALANCED）端子

コネクター	：RCAピンジャック
出力インピーダンス	：200Ω
規定出力レベル	：−10dBV（0.32Vrms）
最大出力レベル	：+6dBV（2.0Vrms）

PHONES端子

コネクター	：6.3mm（1/4'） ステレオ標準ジャック
最大出力レベル	：20mW+20mW以上 （THD+N 0.1%、32Ω）

デジタルオーディオ出力定格

DIGITAL OUTPUTS（COAXIAL）端子

コネクター	：RCAピンジャック
対応信号フォーマット	：IEC-60958-3民生用規格準拠 （S/PDIF）

DIGITAL OUTPUTS（OPTICAL）端子

コネクター	：TOS（JEITA RC-5720C）
対応信号フォーマット	：IEC-60958-3民生用規格準拠 （S/PDIF）

オーディオ性能

周波数特性

20Hz ～ 20kHz：±1.0dB（再生時、JEITA）

S/N比

90dB以上（再生時、JEITA）

歪率

0.01%以下（再生時、JEITA）

ダイナミックレンジ

90dB以上（再生時、JEITA）

チャンネルセパレーション

90dB以上（再生時、JEITA）

バックアップメモリー

本機は、電源をオフにしても以下の設定をバックアップします。

時間／タイトル表示設定
再生モード
プログラム（CD、ディスク挿入時）
カレントフォルダー（CD、データCD挿入時）
カレントソース
リピート再生機能の設定（オン／オフ）
ピッチコントロール（オン／オフ、CD）
ピッチコントロール値（CD）
ペアリング情報 （最大8件）

Bluetooth

Bluetoothバージョン：3.0

出力クラス	：Class 2 （見通し通信距離：約10m*）
対応プロファイル	：A2DP、AVRCP
対応A2DPコーデック	：SBC、AAC、aptX
対応A2DPコンテンツ保護	：SCMS-T

＊ 通信距離は目安です。周囲の環境や電波状況により通信距離は変わる場合があります。

一般

電源
AC100 V、50-60Hz

消費電力
8W

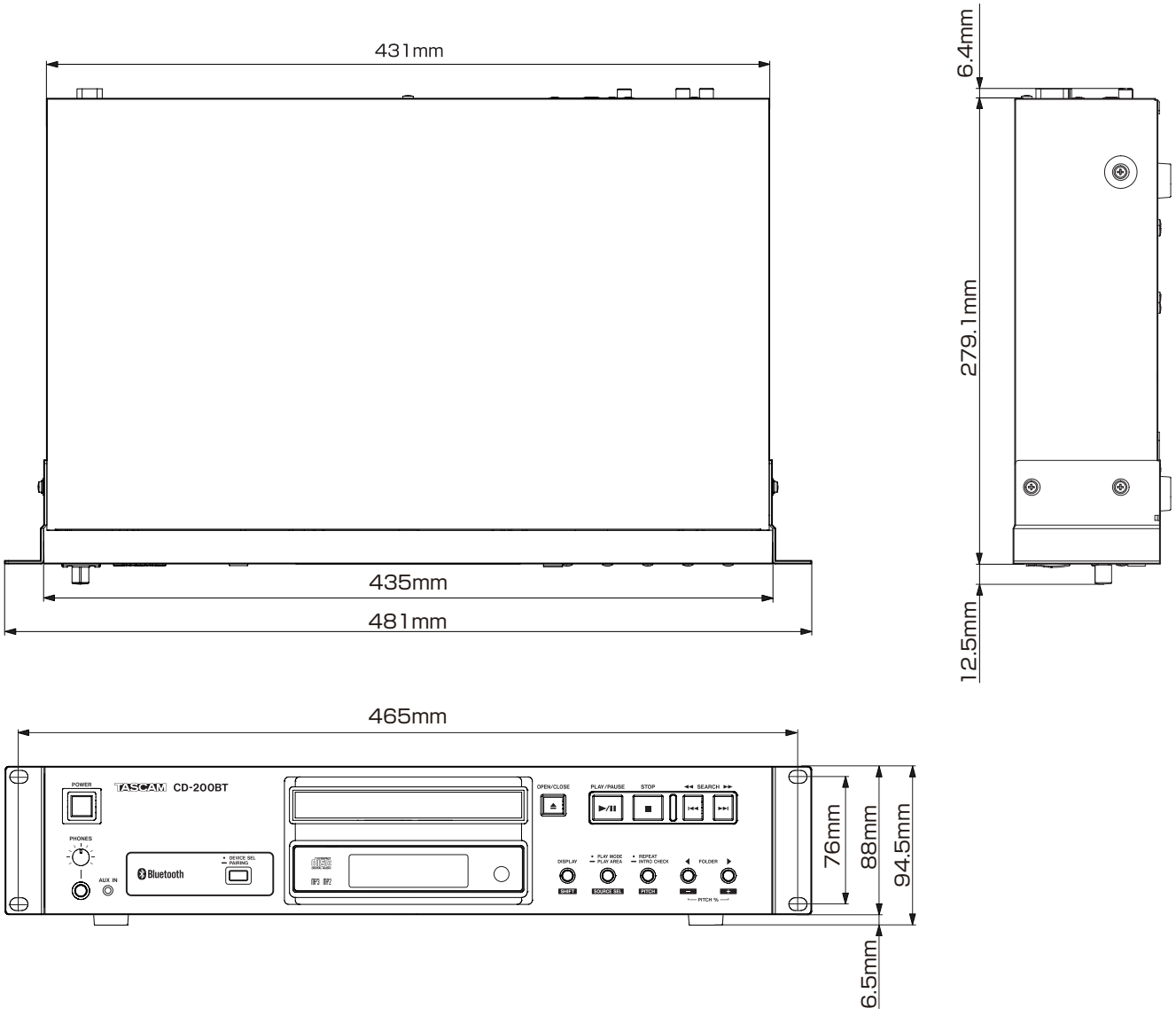
外形寸法
481x94.5x 298mm（幅 x 高さ x 奥行き）

質量
4.5kg

動作温度
5 ～ 35℃

設置時傾斜
5度以内

寸法図



＊ 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
＊ 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

Memo

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00～12:00 ／ 13:00～17:00です。

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530　東京都多摩市落合 1-47

0120-152-854

携帯電話・PHS・IP電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 ／ FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター 〒358-0026　埼玉県入間市小谷田 858

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。
このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：04-2901-1033 ／ FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社
〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47
http://tascam.jp/

Printed in China